

特別座談会 釧路公立大学開学30周年にあたって



出席者

国立大学法人
北海道教育大学釧路校 准教授

川前あゆみさん
(第4期卒業)

釧路公立大学学長
高野敏行

釧路公立大学
事務組合管理者
釧路市長

蝦名大也

社会医療法人 孝仁会
法人本部 財務部 課長

伊藤健一さん
(第1期卒業)

【30年を振り返って】

高野／私は開学時からずっと本学に在籍しておりますが、開学当時のことを思い返すと、まずは開学に関わった人たち、先生方の顔がたくさん思い浮かびます。入学式を迎える前に最初の教授会が開かれ、その席で初代学長の高嶋学長が挨拶され、「風通しのいい大学を目指したい」と話されたのをよく覚えています。

また当時の学部長であった吉武先生は、大学運営で何かを決めなければならないことがあると、「オーソドックスにいきましょう」とおっしゃっていたのを思い出します。本学は経済学部の単科大学としてここまで歩んできましたが、大学のあり方がシンプルでわかりやすく、この二人のリーダーが敷いたレールが今も息づいているのを感じます。

蝦名／開学に向けて尽力された鱒淵元釧路市長はじめ、多くの方々に敬意を表する思いです。今流で言えば地方創生ということになりますが、釧路公立大学の設立はまさしく地域づくりへの挑戦であったのだと思います。複数の市町



村による一部事務組合方式の大学は釧路公立大学が最初です。昨今、地方都市では定員割れで経営難に直面している大学が数多くありますが、本学は学生数も順調に推移しており、振り返ると、管内市町村が直接運営する公立の形態を選択したことが、今になって差に表れていると思います。

伊藤／私は第1期の学生でした。当時を振り返ると、体育館もグラウンドも無く、施設がまだ整っていませんでした。私はサッカー部に所属していたのですが、近隣の学校のグラウンドをお借りして練習していました。1期生は260人余りで、みんなが顔見知りで仲もよく、部活も掛け持ちしながら助け合ってやっていたのを思い出します。

仕事上、市役所や金融機関を訪ねる機会が多く、同期を含め釧路公立大学の卒業生がたくさんおられて、親しくお話することがあります。数多くの卒業生が地域で活躍されているのを見るととてもうれしく思います。



川前／私が入学した当時は、まだ3年生までしか在学していなかったのですが、先輩たちがとても大人に見えたのをよく覚えています。先輩たちが後輩の面倒を見たり助けてくれて、学年が違って近しい関係であったように思います。

私は今、北海道教育大学釧路校で教鞭をとっています。釧路公立大学は、単科大学のよさというか、学生と教員の距離がとても近い印象があります。街の至るところで卒業生がたくさん活躍されていますし、この地方にとって大切な存在なのだと思います。当時、この辺は一面の原野でしたが、大学を起点に周辺も開発が進み、街づくりにも貢献していることを強く感じます。

高野／開学当時の学生は、新しい大学ということで、どんな大学なのかもわからずに、好奇心旺盛にやってくるのですから、行動力とかチャレンジ精神とか、エネルギッシュな学生が多かったように思いますね。ただでさえ自由闊達な子たちですから、入学するとますます自由になる。だからパワーが違う。昨今の学生は、真面目で講義もあまり休まないですが、比較的小となしいです。ただ、きちんと目標を示してあげて、目標が決まると、とても力を発揮し伸びるタイプの学生が多い気がします。

【釧路公立大学が地域に果たす役割】

蝦名／釧路に大学があることで、18歳から22歳までの多くの若者が集まってきて、街を活気づけてくれるよい面があります。また、東北はじめいろいろな地方から学びにやって来て、釧路のことを知り、故郷に戻って釧路のよさを発信してくれることも大きいですね。経済に長けた有為な人材を、ここ釧路から数多く送り出している計り知れない価値を、私はとても強く感じています。

高野／釧路管内が大学を持っていることは、地域自らが人材育成や教育のあり方についての姿勢を表していると思います。それは釧路の価値を高めていますね。現在、本学には1,300人以上の学生がおり、地域へ果たす直接的な経済効果も大きいものがあります。長い目でみると、よい人材を地域に輩出し続けることこそが、この地にとって重要なのだと思います。

川前／釧路には釧路公立大学、北海道教育大学釧路校、釧路短期大学、釧路工業高等専門学校の中の四つの大学がありますが、私がいたころに比べると学生同士の交流もとても活発ですね。よさこいサークルなどもそうですし、公立大、教育大、釧路短大、高専と、学生たちが同じ活動に参加している話をよく耳にします。これは釧路くらいのちょうどいい大きさの都市だからこそ実現できているのだと思います。学生を見習って、教員同士ももっと交流していくべきかもしれませんね。

伊藤／先ほど市長がおっしゃっていたように、学生がそれぞれの故郷に戻っても、釧路の良さをPRしてくれる効果は大きいですね。サンマやホッケ、シシャモといった地場産品を大いに宣伝し、また消費もしてくれる。

高野／今、1期生や2期生くらいの人たちは、市役所だと課長職の人もあります。彼らが本領を発揮するのはこれからで、ますます楽しみですね。金融機関や民間企業に勤めている卒業生もこれからはますます重要な地位に上がってくる。

蝦名／釧路管内市町村と釧路公立大学の近い関係の一例として、地域経済研究センターの存在がありますね。

高野／センターは平成11年に設立され、もう18年になります。地域に開かれた社会学科系の研究機関です。経済を中心に地域の様々な課題に取り組み、その成果を社会に還元することを活動の主な柱としています。

蝦名／釧路市もセンターと共同研究プロジェクトを組み、財政の健全化や公有資産の長期運用管理、公共施設の整理など、市の様々な課題について市職員らと共に研究を進めてきました。センターの素晴らしいところは、コンサルのように単に外部委託先として研究レポートを提出して「はい終わり」ではなく、市職員共々一緒になって考え、研究を進めていくところです。共同で取り組むことで、市の職員には経験とノウハウが蓄積される。問題解決のプロセスや実践方法を学ぶことができます。

私自身も、当時センター長だった小磯前学長が主宰していた社会人自主ゼミナールの2期生で、道議会議員でしたが、月1回通って1年間学ばせてもらいました。そこで行政問題の考え方や、実践的な思考力をつけさせてもらいました。

【釧路公立大学のこれからについて】



高野／これから少子化がもっと進み、平成32年にはセンター試験に代わる共通テスト導入と、大学を取り巻く環境はどんどん変わっていきます。幸い本学は経営的には安定していますが、運営者として将来的にもこれを維持していかなければならないと思っています。

大学だけでなく、日本はこれからどんどん変わっていくでしょう。大学は、学生がそういう変化を自身で越えていく力をつける場所であればなりません。そのためには、知識を超えたも

の、人間力といった、人としての根を鍛えなければなりません。そういったことができるのが、教員と学生の距離が近い小さな本学の特長だと思います。本学はこれをずっと大切にしていかなければなりません。



川前／経済学は数値化で物事を計ることが中心の学問ですが、私の勤めている教育大では、教育の成果がすぐには数値化できないものが中心です。高野学長の話の聞いていると、公立大にも経済学の枠を超えた人材育成というすぐに数値化できない部分の取組が今後より求められると感じます。

伊藤／少子化で大学が生き残りを模索する中、この大学に何か提案するとすれば、学生には独立心を養うというか、将来起業して会社を立ち上げるような人材育成の色を打ち出すのも、経済を専門とする大学にはよいと思います。卒業して会社を起こすなど、将来、仲間と何かやろうというときに、少しでも役立つようなものが大学で身につくとよいですね。

蝦名／管理者としては、今後、大学の経営をどう舵取りしていくかを、常に考えていかなければなりません。しかし、大学の理想という点

で言いますと、今後、世の中がどう変化していこうとも、激動の社会を乗り切っていく力をつけさせる人材育成が重要です。学生本人のためにも、学生の親御さんもそれを切に望んでいるのだと思います。福沢諭吉の「学問のススメ」も学問のことより人としての生き方を書いています。要はどんな時代にあっても自分の頭で考えられる力ですね。

高野／この大学の将来について、特に教育というより運営面に絞っていうなら、やはり学生の満足度を上げるということが大切です。施設の改善や新設など、学生に喜ばれるニーズを捉え、満足度を高めていくこともポイントだと思います。

もう一つには、大学が地域を高め、リードしていくような存在になること。そうした活動に力を注いでいくことで、地域から大切にしてもらえる。附属図書館の一般開放、公開講座のように、市民から親しみをもって、好意的に感じてもらえる活動を強化していくことが、釧路公立大学のあるべき姿だと思います。



座談会① 自治体勤務の卒業生



出席者

石川美佐絵さん（第1期）釧路市福祉部生活福祉事務所

高松 一哉さん（第2期）鶴居村保健福祉課

佐藤 陽平さん（第11期）白糠町企画総務部総務課

櫛引真由子さん（第13期）厚岸町教育委員会管理課
(旧姓 菊地)

高橋 俊介さん（第16期）標茶町総務課

内村 和樹さん（第20期）浜中町企画財政課

佐藤 豪留さん（第20期）釧路町教育委員会教育部管理課

山崎 友寛さん（第21期）弟子屈町環境生活課

大学時代の思い出



石川／開学当時は大学設備も完全なものではなくて、体育館もありませんでした。大学周辺は、本当に何にも無くて、今のような繁栄した姿はとても想像できませんでした。

私は最初、軽音楽部に入部しました。ライブ会場がアトリウムだったのを覚えています。部室も無かったので、事務局の方に地下室を使わせていただいて練習していました。その後、軽音楽部を退部して、女子アイスホッケー部を設立し、初代の部長兼主将をやりました。サークルを立ち上げたのは男子が中心で、女子中心の部活はありませんでした。活動的な女子で何か作ろうということになり、釧路ならではの運動部ということで、アイスホッケー部を立ち上げました。チームの取りまとめがなかなかうまくいかないこともありましたが、練習相手をしてくれた社会人チームは強過ぎて、全然相手にならなかったのですが、とても楽しかったです。



佐藤(豪)／私は大学時代、サークル活動はしていなくて、映画館でのアルバイトに明け暮れていました。そのアルバイト生活が今の自分にとっても役立ったと思っています。経済学部卒だったからかどうかはわかりませんが、役場

では最初に財政課に配属され、日々、数字と向き合って苦勞していました。



櫛引／私は厚岸で生まれ育ったので、大学に入ったことで世界が広がりました。当時の新入生には、東北や関西、九州などから来た方もいて、そういう人たちと友達になれたことで、とても視野が広がって楽しかったのを覚え

ています。厚岸からJRとバスを乗り継いで大学に通っていました。アルバイトは4年間同じファストフード店で働いて、そこでいろいろ社会勉強し、経験させてもらったことが後々とても役に立ちました。



内村／私は高校から釧路に住み始めました。大学時代は、私もアルバイト漬けの日々でした。サークルでは軽音楽部と、キャンプを企画する活動などをしていました。

役場では最初に農林課へ配属になり、今は企画課に移って2年目になります。農林課では大学で学んだことはあまり役立てられなかったのですが、今の課では少し役立てられています。



高橋／私は、標茶生まれでずっと標茶で育ちました。私の学生生活もアルバイトが中心でした。正直なところ、あまり大学にはまじめに通っていない学生でした。年に何度しか校舎には行かず、たまに行った時でも95%くらいは所属していた軽音楽部の部室にいたように思います。高校時代に学祭で一度ドラムをたたいた程度で、大学入学当初は素人同然でしたが、部室に入り浸っていたおかげで上達できました。先輩後輩、サークルのつながりがとても楽しい日々で、今も頻繁に連絡を取り合っています。



山崎／私は卒業して最初に勤務した会社をわずか2か月で退職して、2年間のフリーターを経て、弟子屈町役場に就職しました。まだ3年目です。環境生活課でゴミの処理の仕事などをやっています。

私は卒業単位ぴったりで卒業するほどの出来の悪い学生でした。それでも友達との仲はとてもよくて、今でも交流は続いています。去年は東北の友達の結婚式に出席してきました。



高松／私は実家が標茶町でしたので、2年生まで、JRとバスを乗り継ぎ、片道1時間30分かけて通学していました。3年生からは授業が少なくなったので、車での通学となりました。2期生ですが、平成元年の入学当時は周り

には何もなくて、大学の正門前は一带が葦の原野でした。日中は工事車両が常に走っていて、現在の文苑地区に一気に街が出来上がっていったのを覚えています。バブル真っ盛りのころで、釧路も景気がよかったですね。

アルバイトは、標茶町内で中学生や高校生の家庭教師をしていて、生徒をたくさん受け持っていました。中には、釧路公立大学に進学した生徒もいましたよ。

サークルはバレーボールをやっていました。標茶から通学していたこともあり、時間的な都合で正規の部には入らず、同級生のサークルに入れてもらってやっていました。いわゆる「非正規軍」です。このサークルには、インターハイの代表選手など、バレーボール経験者が多く、釧路管内の大会に出ても勝ちましたし、正規のバレーボール部と試合をして勝ったこともありましたので、結構レベルが高かったですね。



佐藤(陽)／私は釧路市の出身で、大学へは新富士の自宅から6km近くを自転車通学していました。川沿いの通学路は行きも帰りも向かい風で、太ももがパンパンになるほどでしたが、アルバイトでお金が貯まるまでずっと自転車通学でした。アルバイトは日雇いの仕事を中心に、五木ひろしさんのコンサートスタッフなどもしていました。学生のころから社会の厳しさを学んでいました。

現在の仕事、 公務員としての今

佐藤(陽)／私は今四つ目の部署です。最初は水道課で、滞納者への対応は大変でした。目の前で夫婦が突然喧嘩を始めたこともあります。経理も担当していたのですが、在学中唯一落とした科目が簿記でしたので、その私が経理でいいのかという思いでした。二つ目が経済部の産業振興課で、やっと大学で学んだことが活かせるかなと思ったら、白糠町が力を入れているシソ畑の管理などをすることになって、自分は一体何をやっているのだろうと思うこともありました。その後は広報で、新聞記者のようなこともやりました。事務以外の仕事が多く正直大変でしたが、いろいろな経験ができて、とても充実しています。

高松／公務員はやりがいのあるいい仕事だなと思い、最初は道職員になったのですが、入った部署が当時とても過酷で、職場に泊まり込む日が続き、これでは体を壊すと思って道職員を退職しました。幸運にも、縁があり道職員を退職した次の日から鶴居村職員に採用していただきました。村役場は職員の数が少ないものですから、こちらも仕事はかなり大変で、自分の考えの甘さに気付きました。自分一人で複数の業務を同時並行でやらなければならないことが多々あり、11年間在籍した教育委員会では、夏にはキャンプ行事の準備や運営など、各種イベント続きで、土日も勤務になることが多く、なかなか休みを取れなかったことがありました。その後、配属された産業課では、商工観光を担当しました。そこでは同じ課の農政係や林政係などの他の業務を手伝い、その後異動した振興課や住民課でも様々な業務を経験できましたので、今では仕事の幅が広がったと実感しています。現在は、保健福祉を担当しています。職員はオールラウンドプレーヤーにならなければいけないと、小さい村ゆえの大変さを感じています。

石川／私は勤め始めて26年間、ずっと福祉の仕事に携わっています。公務員の仕事で辛いなと思うことは、やはり法律に基づいてやらなければならないので、困っている人に法律以上の支援がしてあげられ

ないことですね。これが民間企業なら柔軟な対応で支援してあげられるのかなと思うことでも、できないのが辛いですね。

山崎／大学時代にはごみの分別をあまり意識していませんでしたが、今、環境生活の部署に来て、資源ごみの認識が高まったと思います。分別を間違えると、処理場の人に迷惑がかかるといったように、公務員になって意識が変わりました。交通ルールなどのモラルの面でもそうですね。

佐藤(豪)／民間と公務員では、利益の考え方が違います。公務員の場合は、あくまで住民の利益という考え方です。住民への対応の仕方や、仕事の進め方も前例に則ったカタチが主になります。備品や消耗品などは税金で賄われているのでムダにはできません。

櫛引／採用以来、教育委員会職員として11年間教育行政に携わっています。今の部署では、主に小中学校の予算執行や奨学金に関する業務を担当しています。厚岸町の児童生徒が充実した学校生活を送れるよう、微力ながら貢献できればと思い勤務しています。

内村／公務員はパソコンに向かって仕事をするんだなという漠然としたイメージを持っていたのですが、すぐに、農家に派遣されまして、家畜の糞の始末などの手伝いをしました。これも公務員の仕事かと衝撃を受けました。

釧路公立大学出身で よかったと思うこと・ 地域に貢献していると思うこと

石川／釧路公立大学の事務局の方は釧路市から派遣された職員で、私が釧路市に就職すると同時に同僚になりました。学生時代からずっとよくしていただいた方も多くいて、今でも「学生の石川」というイメージ

で関わってくださっています。いつまでも目をかけていただいてありがとうございます。釧路市役所には現在、卒業生が100名を数えるほど大勢いらっしゃいます。そういう意味では親近感や連帯感が生まれていますね。

高松／鶴居村役場には卒業生は私くらいで、釧路市とはずいぶん違うのですが、釧路管内の市町村には同期がけっこういますね。横のつながりで、他の市町村の状況など情報交換ができて助かっています。

佐藤(豪)／釧路町役場にも卒業生は多いですね。同窓ならではの親しみを感じます。釧路公立大学で公務員になる方は多いです。東北から来た人も地元に戻って公務員になった方がたくさんいらっしゃいます。東日本大震災でも頑張っていたと聞きます。

高松／釧路公立大学が地域に貢献しているということ言えば、今、人口の減少が顕著に進んでいる中で、大学に来られた方が地域経済の下支えをしている面はありますよね。約1,300人の学生が地域にいて経済を活性化していると思います。

石川／釧路市職員には、大学進学を機に他の地域から来て、釧路を好きになって職員になった方もいます。夏の涼しさなど釧路のよさを知っていただいて、大学があることで外部から来た人が少しずつ増えてきているのではないのでしょうか。



佐藤(豪)／釧路町目線でお話すると、釧路町が発展しているのは釧路公立大学の存在が欠かせないと思いますね。大型スーパーの進出などは、大学のおかげによるところは大きい。

内村／飲食店のアルバイトや下宿・アパートの利用なども釧路公立大学の学生が随分と地域に貢献していますね。

これからの釧路公立大学に期待すること、後輩へのメッセージ

佐藤(陽)／白糠町役場には釧路公立大学の卒業生が2名しかいないので、ぜひ白糠町に来ていただきたいですね。一緒に頑張りましょう。

内村／大学時代を振り返って、後悔していることは、留学をしておけばよかったということです。無理しても行っておけばよかった。ですから、後輩諸君には、今できることをしっかりやっておいてほしいと思います。この大学には留学できるチャンスが多くあるわけですから。

高橋／あまり勉強しなかったので、偉そうなことは言えませんが、勉強もほどほどに、遊びも楽しんでほしいですね。

山崎／大学の時しかできない、旅行なども楽しんでほしいですね。卒業後も遊べる友達をつくってください。

石川／私はアイスホッケーに夢中になっていた学生生活だったこともあって、後輩にはぜひ熱中できることを見つけていただきたいですね。せっかく釧路に来たのだから、ぜひアイスホッケーをやってみませんか。

櫛引／もちろん勉強も大切ですが、大学時代築いた人間関係はかけがえのないものですから、友達付き合いを大切にしてほしいですね。

佐藤(豪)／ちょっと厳しい言い方をすると、大卒で公務員になるとそれなりに期待されます。大学を出たのだからと。アルバイトでも何でもいいですから、社会的な経験をして、マナーや会話の仕方などをしっかり身につけておいてほしいですね。

高松／常識や最低限の社会性は必要ですね。そして、釧路公立大学の卒業生としての誇りと気概を抱いて社会に飛び出してほしいです。







出席者

大原 礼孝さん（第5期）釧路信用金庫 経営企画部

佐々木俊哉さん（第19期）釧路信用組合 西港支店

中村 浩樹さん（第23期）大地みらい信用金庫 釧路東支店

板花 昂太さん（第24期）網走信用金庫 釧路支店

金澤 郁美さん（第25期）北海道労働金庫 釧路支店

田井 礼子さん（第25期）北海道銀行 釧路支店

大学時代の思い出



大原／私は静岡県の御殿場市の出身で5期生になります。釧路公立大学は当時、受験日程が組みやすい東京での試験という理由で、どこにあるかもよくわからず受験を決めました。

入学で初めて釧路に来て、まずその寒さに驚いたのと、スパイクタイヤの粉塵で埃が舞っていて、第一印象は最悪でした。大学では最低限の単位は取りましたが、あまり真面目な学生ではなく、さぼることも多かったです。4年間ずっとサッカーをやっていて、その時の仲間とは今も親しくしています。道東の信用金庫に就職し勤めている同期がいますが、たまに会って昔の話をします。

当時の思い出で特に記憶に残っているのが、下宿に給湯器がついていなくて、冬の朝、顔を洗うのがとても冷たくて辛かったことです。第一印象が悪かった釧路ですが、在学中の4年間で、私の釧路観がすっかり変わりまして、今では釧路が大好きになりました。



板花／私は十勝の陸別町の出身で、日本でも有数のとても寒い町から来ました。来た当時は、釧路の風がとても強いので、陸別よりも寒いと感じました。1年から2年にかけての下宿生活はとても楽しかったです。下宿生活を共にした仲間とは、今でも付き合いがあります。

道内はもとより東北はじめ、いろいろな地方から学生が集まっていますので、そういう違う環境で育った人たちとの出会いが、学生時代の財産ですね。



中村／私は岩手県の出身で、釧路のことをよく知らずに来ました。気候も岩手に似たところがあり、過ごしやすくいイメージがあります。岩手もかなり雪が降るのですが、やはり釧路の寒さは肌に痛いほどで、最初はとても驚きました。

学生時代は準硬式野球を頑張りました。アルバイトは掛け持ちしていろいろな経験をすることができました。私の弟も今年、釧路公立大学を卒業しまして、兄弟揃ってお世話になりました。



田井／私は釧路市音別町出身です。ずっと釧路の大学に行きたいと思っていましたので、釧路公立大学へ入学しました。本当は一人暮らしがしたかったのですが、親の反対で叶わず、4年間JRで通っていました。朝早く家

を出なければならなくて、大変でしたが何とか通いきりました。学生時代は女子アイスホッケー部のマネージャーをやっていました。最初は興味もなく友達に誘われて始めた部活でしたが、入ってみると面白くてけっこうはまっていました。今思い起こすととてもよい思い出です。



金澤／私は25期卒で今年社会人2年目になりました。高校卒業と同時に一人暮らしを始めて、周りの友達も一人暮らしの人たちばかりだったので、学生時代はそういった仲間が集まって遊んでいました。大学ではスノーボード

サークルに所属していました。とてもにぎやかなサークルで、仲間との楽しい思い出がたくさんできました。ゼミでキャンプに行ったりしてとても充実した4年間だったと思います。



佐々木／私は北見市の留辺
薬町の出身で、高校の時まで
留辺薬で過ごしました。高校
を卒業してすぐに公務員にな
りたかったのですが、準備不
足でなれず、しっかり時間を
かけて実現しようと進学を決
めました。親に金銭的負担を

かけたくなかったので、アルバイトに精を出しすぎて、
勉学が疎かになり単位取得も危ういときもあったの
ですが、3年生に集中して単位を取得して何とか就
職活動に専念できました。2年生のころに、公務員か
ら金融機関に路線を変更して、釧路信用組合に就
職することができました。

就職した当時の思い出、 現在の仕事について

佐々木／今、渉外担当の仕事をしています。銀行マン
は人との関わりが特に大切な仕事だと感じていま
す。営業職なので大変なときもありますが、やりがい
があります。銀行マンにとって何より大切なのは、や
はり、お客様との信頼関係を築き、それを厚くしてい
くことだと思います。

金澤／私は現在、預金係として窓口で勤務していま
す。“ろうきん”は労働組合のお客様が主です。最初
は何もかもわからず慣れないことだらけで、一から仕
事を覚えていく毎日でした。銀行員は試験を受け資
格を数多く取得していかなければならないので、試
験勉強が大変です。また、ジョブローテーションという
部署異動を行っているため、先輩や後輩への仕事
の引継ぎがあってそれも大変ですが、その分やりが
いも大きいです。

田井／私は昨年、北海道銀行釧路支店に入行して、
今年2年目になります。3月まで為替の部署で働いて、
4月からは出納の所属になりました。係が変わって最
近やっと慣れてきました。出納ではその日の現金が合
わないと仕事が終われないので周りに迷惑をかけな
いようプレッシャーがあります。金澤さんとおっしゃ
ったように、試験もけっこう多くて大変ですね。北海道

銀行釧路支店は今年10月に移転が控えていて、そ
の準備も忙しくなっています。

中村／私は入庫して最初の勤務地が羅臼支店でし
た。羅臼では日用品以外の大きな買い物は中標津
町まで車で1時間かけて出かけなくてはなりません
でした、冬の寒さも苦労しました。羅臼支店にいた当
時、ローンの契約でお客様から印鑑をもらい忘れて
しまったことがあって、標津町まで車で50km走って印
鑑をもらった失敗を思い出します。

昨年、釧路東支店に転勤になりまして、現在渉
外担当をしています。金融の仕事は商品のいろ
んな知識を身につけなければなりませんし、資格試
験が多いのも大変ですね。

今年も大学の後輩が入ってきまして、現在、マン
ツーマンで後輩の指導もしているところです。新人
は1年目でどれだけ成長できるかが大事なポイントと
なりますので、教えることの難しさ、責任を実感し
ています。

板花／私は現在、網走信用金庫釧路支店に勤務
し、3年目になります。預金係の窓口担当で、周りはす
べて女性で上司も女性、男は私一人です。女性に囲
まれた職場環境は何かと気を遣うので大変です。

預金係には毎年新人が入ってきます。私が指導係
を任せられているので、指導教育の責任をしっかり
果たしていかなければならないと自覚しています。

大原／私は現在、経営企画部という本部部署にお
りまして、新規の事業拡大や収益管理、地域貢献に
向けた事業の企画、実施などの仕事をしています。

昨年は当金庫の90周年の記念誌も作りまして大
変苦労しました。営業部署にいたときもそれなりに苦
労はありましたが、今、経営管理の部署に身を置いて、
昨今経営環境の変化が激しい中に、どうやって
事業を展開していくか、頭を悩ませている日々です。

金融関係の仕事は、人と接することが好きでは
ないと務まらない仕事です。たとえ頭がよくてもコミュ
ニケーションをとることが苦手な人は、入庫後苦労
する方が多いように思います。しかし、人付き合い
がしっかりできる人は、入庫した時、あまりぱっとし
なくても経験を積むにしたがって伸びていくことが多
いですね。

釧路公立大学出身でよかったと思うこと

田井／私の職場には一つ上の卒業生がいます。後で知ったことなのですが、この先輩が入行時から頑張っていたことが評価されて、私たち後輩に道をつくってくれました。自分もこれから当行を目指す後輩のためにもしっかりしなければならぬと思っています。

学生の時、ホテルの宴会サービスのアルバイトをしていたので、接客での挨拶の仕方や言葉遣い、電話対応などを学べたことが、今の仕事に役立っています。

中村／私の職場にも卒業生の上司が何人かおられて、飲み会に誘われたり何かと面倒を見てもらっています。大学の先輩の存在はやはり頼りになります。

また、地元の方と同期がいて、連絡を取り合っています。遠方からも大学時代の友人が結婚式に来てくれたり、今も仲よくしてくれて、ありがたい存在ですね。

板花／私の支店には卒業生は私一人だけですが、職場全体ではたくさんいますので、卒業生同士何かと助け合う機会も多いですね。仕事上、何かわからないことがあるときも、卒業生だと聞きやすいですし、親近感もあります。

私は、入学当時、教員を目指していたのですが、経済学のゼミで大きな感銘と影響を受け、金融機関の今の職場に巡り合えたのも、この大学のおかげだと思っています。

大原／私たちの世代も含め、多くの先輩たちが地元企業で活躍され、実績を重ねてきたことで、後輩への道を作ってきたのだと思いますね。先日も東京からお客様がいらしゃって、よくよく話を聞いてみると、その方が大学の先輩で、それで一気に距離が縮まったということがありました。ビジネスの世界ではそういうつながりで、よい方向に向かうことがしばしばあります。

佐々木／私が担当する取引先にも卒業生のお客様が多くいらっしゃいます。同窓のよしみで親しくお付き合いいただくこともあります。卒業して7年になりますが、同期とは年に1、2回集まる関係が今も続いています。

学生時代は、派遣会社を通じていろいろなアルバイトをしていて、牛丼屋、ゲームセンター、引越屋と様々な業界を知る機会がありました。振り返れば、そのような経験も今に役立っている部分があると思います。

金澤／当金庫の支店は釧路管内に一つしかないのですが、今年もこの大学から一人の新人が入ってきました。会社の行事で全道から職員が集まる機会があるときなど、同窓で盛り上がるがあります。

私の友人にも何人か金融機関に就職した人がいます。就職活動でも励まし合ったり、情報交換など協力し合って就職活動に臨めたのでよかったですね。その時の仲間たちは今も連絡を取り合う仲です。

学生時代はアルバイトで接客が中心の仕事をしてきたこともあり、そこで鍛えられたことが今の窓口業務に役立っているかなとも思っています。

釧路公立大学が地域に貢献していると思うこと

中村／在学中はよく知らなかったのですが、金融機関に入って、この大学が地域経済の活性化対策などいろいろな分野に貢献しているということを改めて知りました。社会人向けのセミナーなど私たちが参加する機会もあり、私自身も地域経済の活性化に向け、共に考え関わっていければと思っています。

板花／この大学には全国各地から学生がやってくるから、地域の活性化に一役買っていると思います。東北から来て、故郷に帰り、震災復興で頑張っている人も多くいます。消費活動や雇用など、釧路の地域経済にも一定の役割を果たしていますね。

大原／今の部署にいて特に感じるのは、釧路公立大学が、地域にとって大きな存在になっているということです。地域経済研究センターでは、地域と一緒に観光振興や物産品開発の共同研究を盛んに行っています。特にこの10年は、シンクタンクとしての機能が高まっています。

私もセミナーに参加させていただくことがあって、セミナーを通じて課題の存在や解決に向けてのヒントを聞いたりして、「なるほど、こういう考え方、やり方もあるのか」と今の仕事に役立っています。

昨今は“産学官金”という連携の言葉をよく耳にしますよね。釧路ではこの地域連携がよく実践されています。これも釧路公立大学の存在感が大きくなっているゆえなのではないでしょうか。

佐々木／釧路公立大学ができるまでは、このあたりは湿地が広がっていて、この大学ができたことで、この地域に若者が集まり、家や商店もでき、街が発展してきましたね。今では利便性がよく、住みたい街に変貌しました。おかげでインフラも整い、地域に貢献している事例だと思います。

金澤／日本全国から学生が集まり、卒業後も地域に根差し頑張っている方が多く見受けられます。また、それぞれの地元に戻った方の中にも、釧路に遊びに来てくれる方がたくさんいらっしゃいますね。

私が所属していたゼミでは、釧路をPRする動画を制作するプロジェクトをしていました。釧路ザンギの大食い対決や、釧路の冬遊びの紹介など、わかりやすいテーマで動画を制作して、YouTubeにアップし、その閲覧再生回数を競うというものです。小さなことですが、地域のために貢献できたのではないかと思います。

田井／私は、環境系のゼミでしたので、卒論もタンチョウを中心とした地域の自然環境についてまとめました。他地域から来た学生の中にも、釧路の環境をテーマにした卒論にトライした人もいて、外から来た人が釧路を知るよい機会となっているところも、この大学の地域貢献なのかなと思います。

大原／私が入学したころは、校舎の2階から外を見ると、正門の向こう側はまだ何もなくて、ずっと遠くまで見通せました。それから30年でこんなに周りに家が建って、街が発展するとは思いませんでした。本当に地域の経済発展に大きく貢献していますね。



今後釧路公立大学に 期待すること、 後輩へのメッセージ

中村／卒業後はぜひ釧路に残って就職してほしいですね。私から後輩にメッセージを送るとしたら、今を大いに楽しんでほしい。就職したらできないこと、学生のときにやっておけばと思うことが必ずあります。できることなら私も学生時代に戻りたいと思うことがありますから。

佐々木／社会人になると時間もなかなか自由になりません。今を大切にしてほしいですね。そして卒業後も長く付き合える仲のよい友達をたくさんつくってください。

板花／経済学の単科ではありますが、法律や教職などいろいろな学問を学ぶ機会もありますので、一生懸命勉強して、いっぱい遊んで、アルバイトもして、充実した時間を過ごしてほしいですね。

金澤／私が卒業した次の年には、電光掲示板が新

設されたり、カフェができたりして、学生にとって学びやすい環境が整ってきていますので、これからも学生のためにどんどんよくなってほしいと思います。大学時代は長いようで意外と短い時間なので、しっかり目標を定めて一日一日を大切に過ごしてほしいですね。

田井／大学にお願いしたいことは、釧路に就職する人をもっともっと力を入れて支援してほしいですね。地元金融機関にもよい人材を送り出してほしいです。後輩には、勉強も遊びもアルバイトも、大学時代にしかできないことを4年間でしっかりやりきって社会に進んでいただきたいと思います。

大原／先ほどの金澤さんのお話にもあったように、学生が地域のPRや情報を積極的に発信することはとてもよいことであり、この大学の素晴らしい点だと思います。釧路のことを研究することにかけては、他のどの大学にも負けない存在であってほしい。そして地域の研究が地元のいろいろな企業に波及していくことを期待します。

後輩には、学生時代に何でもよいから夢中になれることを一つ見つけて、それを中心に仲間づくりをしていくのもよいかなと思います。

